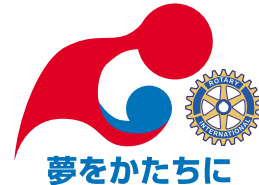




# 碧南ロータリークラブ週報

第2444回例会 平成21年2月4日(水)

- 会長 平岩統一郎 ● 幹事 長田 豊治 ● 会場監督 (SAA) 木村 徳雄 2008-2009年度 国際ロータリーのテーマ
- 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90  
TEL <0566> 41-1100 FAX <0566> 48-1100  
ホームページ: [http:// www.hekinan-rc.jp/](http://www.hekinan-rc.jp/)  
E-mail: [info@hekinan-rc.jp](mailto:info@hekinan-rc.jp)
- 会報委員 長田和徳・岡本明弘・角谷 修・黒田泰弘



**Make  
Dreams  
Real**

## ● 齊 唱

国 歌「君が代」  
ロータリーソング「奉仕の理想」

## ● 四つのテストの唱和

## ● 本日のメニュー

立春弁当 大正館

## ● 本日のお客様

碧南市友好親善協会 副会長 榊原恵子氏



榊原恵子氏



平岩統一郎会長

## 会 長 挨拶

本日は、2月の第一例会でございます。例年は、この時期は非常に寒い時期であり、昨日は節分で一番冷え込む時期でもあります。でも今年は大変温かく、窓から見える中山のお宮さんも明るく見えて、季節を間違えるくらいです。

毎日朝に新聞を読みますと経済の事が載っていますが、そちらの方は厳寒、厳冬な記事であり、非常に大変な状況であります。先日も本を読んでみますと、今回の金融破綻ということですが、金融というものは本来、企業経営を助ける一つの仕事であり、仕事の脇役であったものが、主役になってしまい逆転現象をおこし、金融が前に出てしまったために、資本主義の強さが全面に出た事が間違えだと書いてありました。

今、アメリカは毎週3千億円の戦費を使いまして、お金をばらまいているために国力が破たんし始めていると書いてあります。

その頃から日本でも、小泉さん、竹中さんの頃に金融のグローバル・スタンダード化を目指し、金融立国にしようと流れていきました。したがって大学を出た人々が皆、外資系企業に入社し、一気にお金を儲けようとなりました。その頃、堀江モンとかそういった金融の関係の俗に言う金融の六本木ヒルズ族が、アメリカの真似をして、何か拝金主義的なそういう空気で間違えてしまいました。そのころから経済の疲弊、破たんが続いてきていると書いてありました。

それを読んだ後、洪沢栄一氏の考えが本に書いてありましたが、考え方が違うようでありました。人生感は二つに大別され、自分の存在を客観的にみるのか、主観的にみるのか、どちらかであるが。客観的は、自分の存在を第二として、まず社会のあることを思い、社会の為には自分を犠牲にしてもよいというまで、自我を殺してしまうもの。

主観的は、自分のことを第一に考え、次に社会を認めようとする考え方である。

たとえば、不良少年たちはどうかと考えてみますと、そういった人々は、賭博をしたり、いろいろなことをしたりして、とにかく関心が出来ないところがあります。彼らを見ますと、一貫して共通性があるのは自分さえよければ、他人がどうでもかまわないという考え方があるのです。自分の都合ばかり考えていて、彼らが大変良い身分になっているかという、そうではありません。自分のことばかりを考えていると、かえって自分の為にはなりません。それとは反対に、客観的に我が身を考える人は、他人の為に、為を思う事が帰って我が身の為になる。仁義、道德の念がない者は人生において最後は敗者とならなければならないと。書いてあります。

渋沢栄一氏は、日本の資本主義の父と呼ばれ、国立第一銀行、約500以上の会社を起こしたすごい人です。

そんな時、ロータリークラブを起こしたポールハリス氏はシカゴで弁護士をやっていましたが、そのきっかけの一つとして。同業者や弁護に来る人たちが自分だけ良ければいい、人を騙しても自分だけが良ければいいという考えをした人々にへきへきし、異業種の集まりを作ったのがロータリークラブであります。二つの本を読み、基本的なところは、渋沢栄一氏と似ていると思いました。

## 幹事報告

- 他クラブの例会変更等は別紙幹事報告の通りです。
- 3月21日開催の西三河分区大会につきまして、ガバナー補佐より登録者を増やして欲しいとの要請があり、本日、臨時理事会を開催し、当クラブは全員登録させていただきました。尚、振替日は4月1日(水)を休会日といたします。又、会費ですが登録料が11,000円ありますが、全員登録ということで、本会計より5,000円補助を出し、6,000円を個人負担といたします。



長田豊治幹事

## 委員会報告

### 〈出席奨励委員会〉

総会員数80名(内出席免除者15名の内出席者9名)出席者59名	
出席対象者 59/80名	出席率 74.68%
欠席者21名(病欠者1名)	前々回修正出席率 95.95%

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

### 〈ニコボックス委員会〉

- 山田 純嗣君 社会保険労務士法制定40周年の式典において連合会長より表彰を受けました。
- 鈴木 並生君 当社、整備工場が完成しました。業者の皆様に大変お世話になりました。
- 平岩統一郎君 会員の伊藤正幸さんにお世話になりました。
- 杉浦 昌裕君 愛知県がんセンター中央病院にて食道がん内視鏡手術をうけ、無事退院しました。
- 清澤 聡之君 ボーイスカウト600余人による碧海地区B・P祭が無事終了致しました。

### 〈親睦委員会〉

#### 会員誕生日

- 3日 藤関 孝典君      4日 杉浦 昌裕君      5日 森田 雅也君
- 5日 新美 雅浩君      9日 石川八郎右衛門君      16日 平岩 辰之君
- 18日 植松 敏樹君      25日 杉浦 昇一君      26日 伊藤 正幸君

#### 奥様誕生日

- 1日 中根 祐治君の奥様澄恵様      5日 新美 雅浩君の奥様美由紀様
- 15日 新美 惣英君の奥様直美様      20日 石橋 嘉彦君の奥様里美様

#### 結婚記念日

11日 平岩統一郎君・和恵様 31年 11日 新美 宗和君・雅代様 29年  
16日 竹下 聡君・美也子様 18年 26日 榊原 健君・陽子様 33年  
28日 長田 銑司君・美代子様 46年

### 「春の50周年記念家族会」のご案内

平成21年4月12日（日）、信州南木曾温泉「ホテル木曾路」にて50周年記念の家族会を開催いたします。皆様の多くのご参加をお願いいたします。尚、ご出欠席のご返事は2月18日（水）が締め切りですが、早めのご登録をお願いいたします。

#### 〈ゴルフ部会〉

3月度のゴルフ部会開催のご案内をボックスに入れてありますので、お願いいたします。3月5日（木）、葵カントリークラブを予定しています。

## 卓 話

### 「国際交流ボランティア」

碧南市友好親善協会 榊原恵子氏

こんにちは。ご紹介にあずかりました榊原恵子でございます。本日はこの



ような機会を与えてくださりましてありがとうございます。1986年に碧南市姉妹都市推進委員会委員として、平岩会長のもとに碧南市の国際交流に携わってまいりました。ロータリークラブの皆様におかれましては1990年に友好親善協会発足以来、協会理事として、協会事業にご参画いただいております。また平成20年度よりは黒田会長のもとに事業を展開しております。碧南市の姉妹都市交流・地域の国際交流とボランティアとして活動をご紹介したいと思います。

私は、1972年より財団法人ラボ国際交流センターに所属し、地域の青少年を外国にホームステイする際のコーディネーターとして活動して現在にいたっております。

ラボ国際交流センターは、日本国民各世代に対して、世界の一員としての自覚をうながし、相互親睦のための国際交流活動を推進し、あわせて多民族文化への理解を深める活動を行い、もって国際間の平和に貢献する事を目的として活動しています。現在、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、中国、韓国と交流し、ホームステイや留学プログラムを行っています。参加者は、2万人をこえます。私がお世話したこの地域の青少年たちも140名近くになっております。

ラボの国際交流参加者は、「ことばがこどもの未来をつくる」という理念のもとに教育活動を行っているラボ・パーティに所属しています。ラボ・パーティでは、音声言語（verbal language）＋身体言語（non-verbal language）を獲得し、コミュニケーション力をつけていきます。加えて、豊かな体験を通して、社会力、リーダーシップを獲得していきます。

最近、年齢差のある子どもどうしで遊ぶ機会が減り、子ども社会が希薄になってきました。ラボ・パーティでは、あえて年齢差のあるグループ活動をしています。年齢をこえた大勢の仲間と過ごすことで、子どもどうしがお互いに育て合い、その過程で、個性や能力の違いを受け入れる力や思いやり、協調性といった社会力が育っています。私は、子どもから青少年を対象に、37年間、英語教育に携わってまいりましたが、最近、手話通訳士である姉が「ベビーサイン」、  
「シニアサイン」の本を出版し、手話という音声言語でない言葉に出会い、非音声言語のコミュニケーションの力の大きさに改めて気づきました。

私に関わりました子どもたちに対する地域活動をご紹介したいと思います。

赤ちゃんが言葉を話し始める前から、(1) お母さん（赤ちゃんの周りの人）は手と声で、赤ちゃんは手で会話ができるベビーサインの普及。(2) ホームステイ受け入れによる外国人との交流プ

プログラム企画。20数年前、碧南でホームステイしているアメリカ人の通訳としてロータリークラブ訪問させていただいております。(3) 外国へのホームステイ参加者への準備活動担当。(4) 外国人との交流プログラムのリーダー養成であります。

次に大人に対する活動をご紹介します。(1) 英語での表現活動、狂言「柿山伏」(2) 友好親善協会の黒田会長のウエルカムスピーチとか、ホストファミリーなどのボランティアの活動。(3) 国際交流参加(自己実現self-realizationへの一翼を担う体験)をサポート。(4) 最後に「シニアサイン」をあげたいと思います。耳の聞こえが悪くなった人、喉頭がんなどで声を発することが困難な人、認知症の人などコミュニケーションをとることが困難な人にとって、手による身体表現で思いを伝え、相手を理解することができます。例えば、「手をあわせる」だけで、「ありがとう」が伝えられます。このように、「言葉を豊かに」、「表現を豊かに」することはコミュニケーション力、社会力に欠くことのできない要素です。

このように、英語教育を通して得た知識や体験をもとに、友好親善協会の事業にボランティアとして、メンターとして、関わらせていただいております。

メンターとは、仕事や人生に効果的なアドバイスをしてくれる相談者のことで、自立支援型の人事・教育制度の一貫として導入されていますが、元はギリシア神話のオデュッセウスの息子の後見役の名前からきており、よき助言者の意味をもちます。また、メンターは、対象者の能力を理解し、それを上手く引き出すことを支援したり、能力開発・キャリア開発の目標作りを支援したり、心理的なサポートを行います。

次に碧南市との姉妹都市交流をささえるエドモンズ市のボランティアの皆さんについて紹介したいと思います。初代エドモンズ姉妹都市委員長 ドローレス・ウルマン氏の訪問：「碧南の人々のことは、私の心に温かい思い出となっています。姉妹都市としての関心と交流の希望をもっている市を視察するために日本のいくつかの市を訪問しました。私は、碧南市には文化交流に強い関心をもっている市民組織と行政組織があると思いました。碧南市民の皆さんは思いやりがあり、親切でした。話し合いを通して、エドモンズと碧南の両市間に共有すべき考えや事業の可能性があったと思いました。彼女は当時の市長が、エドモンズの子どもの絵に関心をもち、丁寧に1つ1つ見てくださった、又職員の対応も親切だったと語ってくれました。

エドモンズの姉妹都市委員会(committee)は、任意のボランティア団体で発足しましたが1989年に市から委託された委員会(commission)になりました。市長が委員候補者を市議会に推薦し、市議会が任命しています。委員は、1.事業計画・立案。2.予算・基金(Fund Raising)。3.会員募集(recruit)。4.広報。5.事業実施などを行っています。

姉妹都市交流には、継続的に行っています学生相互ホームステイ、碧南市からの市民派遣などがありますが、私に関わりました違った形の交流をご紹介しますと思います。

こどもの交流として、「はらぺこあおむし」というアメリカの有名な絵本を、碧南市のこどもたちがB紙にかき、ホームステイ中のエドモンズの学生が英語を書いてできあがった、大型絵本を、市民派遣者と共にエドモンズ小学校でこどもたちに紹介するという物語交流を、小学校で英語教育・国際理解教育が実施されるまではやっておりました。

音楽交流としては、1998年、姉妹都市提携10周年に、エドモンズの学生4名による音楽交流がなされました。ロータリークラブでもお招きいただいて演奏しておりますが、碧南市芸術文化センター、市民病院、学校などで演奏しています。(協会設立当初は、著名人の講演会を開催しておりましたが、10周年記念でより多くの人に、限られた予算で姉妹都市を周知していただくプログラムとして企画しております。東京ディズニーランド・プロジェクトに参加した東京大学教授でラボ国際交流センターの理事であられる能登路雅子先生は、AFSでエドモンズ高校に留学されているということで、講演をされております。)

stamp pal (1998年) としては、元姉妹都市委員長のリチャード・タバック氏から「切手交流」がしたいという希望がだされ、協会会員で切手蒐集をされている岡田さんとの「スタンプ・パル」として切手交換が10年間続いています。これはエドモンズで20周年記念レセプション会場に展示された切手展示の前での瀬川市長とタバック氏の写真です。碧南でもタバック氏から送られた切手の展示がなされています。

街並み (1995年) 活動としては、名古屋での世界公園フェスティバルに参加したエドモンズの市職員は、碧南市の公園施設からアイデアを得て、エドモンズ市の施設を作っています。

公園 (2000年) 活動としては、写真家の杉浦清孝氏は、個人で、エドモンズで写真展を開催されたりしていますが、これはエドモンズで作成された杉浦氏の写真によるカレンダー表紙です。シアトルからのフリーウェイからエドモンズ市内へ入るところに掲げられた看板で1990年、エドモンズ市制100周年のとき作成されています。注目していただきたいのは看板の前の植物配置です。ガーデニングの市民組織により、毎年植物がアレンジされています。碧南でも近年フラワーバスケットが見られるようになりましたが、その管理方法とともに学ぶべきことが多かったのです。flower basketとしては、現在、市職員と市民ボランティアにより街の花の管理が行われています。

リーダー (1996年) 育成として、「碧南ウイーク」の開始 エドモンズ市の夏休み中の子どもの教育の一環として高校生がリーダーとなって参加するプログラムがあります。そこに碧南市から2名の高校生が参加し、エドモンズの子どもたちに日本文化を紹介するプログラムに参加しました。この写真は「もち投げ」をイメージしたものです。当時、エドモンズへ高校留学をしていた加藤友子さんと派遣された高校生、磯貝君と重森さんです。この写真は何をイメージしているかわかりますか？相撲です。

Hekinan Weekとして、大人も参加しての茶道体験も行われました。当時の姉妹都市委員長が石や材木を運び、茶室を図書館2階屋上に建てられて、茶会を市長はじめ市の要職の方たちを招き、開かれました。(日本人でエドモンズの姉妹都市委員の岡野さんの親戚を東京から呼び寄せられたり、在米日本人の協力をあおいだりされました。) また着物着付けのデモンストレーション、生け花などの日本文化紹介が行われました。この写真の男の方(クリス・ギトン氏)は、姉妹都市委員でロータリークラブの方です。

ロータリークラブとの関係は、平岩会長をはじめとしてロータリークラブの皆様には、姉妹都市交流にご協力いただいています。エドモンズでも、姉妹都市交流に多大な支援をロータリークラブからいただいております。姉妹都市提携前にもエドモンズに訪問した際、ロータリークラブ例会に招かれております。また、提携当初、尽力されたスタンリー・ディキソン氏はガバナーも務められております。(この左下写真は、12月31日に集ったときの、新年を迎える光景です。右下は、昨年お会いしたときの写真です。) このようにロータリーの国際奉仕の精神をもたれた方たちが姉妹都市交流に関わってくださったことの意義は大きいと思います。

独立記念日には、提携当初の姉妹都市派遣者は、市の要職の方や職員でしたが、10周年には協会会員の参加が増え、昨年、20周年には、交流に深く関わってこられた方たちの参加が多く、むしろ新市長をはじめ市の関係者にはじめての方が多くみられるようになりました。市民の手による交流になってきています。これは市役所前の碧南市から寄贈した石灯籠がおかれている一角で撮られた写真です。その前が市役所となっています。(現在は市役所なのですが、以前は先ほど申しましたディキソン氏がオーナーでした。7月4日の独立記念日には日本庭園のまわりに国旗がたてられます。参加しました独立記念日のパレードやハロウィーンはエドモンズ商業会議所が主催しています。)

日本庭園の造成で、ベストセラーになった「悩む力」の中で、著者の姜尚中(カンサンジュン)

氏は、『時の流れの中ですべての価値は「変化」します』とされている通り、20年前の国際交流・異文化理解・ボランティアは変化しています。好きな人がやっていると言われていたボランティア活動は、今では、自己実現の場の役割を果たしていると言われていています。エドモンズ姉妹都市委員会は、「Bridge Across the Ocean」という日本文化紹介のプログラムを展開されました。Bridge架け橋とは、人がいったりきたりしてこそ意味があり、碧南市民がエドモンズで日本文化を紹介したということに意義があるのだと思います。

グローバル社会として、「国際社会の一員として」と言う言葉がよく聞かれましたが、「国際社会」とはなんなのか？「国と国との共同体 国と国との営み」とあります。グローバル社会とは、世界を一つの共同体として捉える社会のことです。先ほど紹介した姜尚中（カンサンジュン）氏の言葉には続きがあり、『時の流れの中ですべての価値は「変化」しますが、「お金」だけは、「不変」の価値をもった一種の記号として、存在し続けることは間違いありません。悔りがたきはお金です。』昨年からの世界経済危機は、「グローバル社会」の負の一面であると思います。あらゆる面で今後もグローバル化はおこるでしょうが、複数の国が相互に結びつき、互いに経済的、文化的に影響をあたえあい、学びあう国際化をしっかりとみすえた交流が望まれるのではないのでしょうか。

Peaceを願って、碧南市の国際交流は、ご存知のように、2007年に、クロアチアのプーラ市と姉妹都市提携をしました。アメリカ合衆国のエドモンズ市、北海道由仁町、豊田市小原地区とも交流が続いております。また市内外国人との交流事業も行っています。グローバル化が進む中で、文化や価値観の違いをお互いに認め合っただけの交流は、重要性をましています。元エドモンズ姉妹都市委員長ジャック・ダブリン氏は、「世界のどこかでたえず憎しみや紛争がおこっている。私たちの活動はそれらを吹きとばす風のようにでありたい」と言われました。18年たった今、世界には依然として欲望と流血の渦に巻き込まれています。「今日まで築いた生活や社会の資質を保ちつつ、持続可能な社会を構築する」ためにも、違った価値観をもった交流は大切です。交流の主体は「人」です。

「奉仕」の精神をもたれたロータリークラブの皆様は地域の国際交流への関心に敬意を表し、貴重な時間をいただきましたことに感謝して終わりいたします。ありがとうございました。

**次回例会案内 平成21年2月25日（水）**

**卓話「へきなん芸術村について」**

**碧南市教育部文化振興課長 石原 好実氏**